



山本森之助鐵嶺

18 山本森之助《満洲鉄嶺》

一面

大正六年（一九一七） 油彩、カンヴァス
八九・二×一一四・八

明治十年（一八七七）に長崎市に生まれた山本森之助（一八七七～一九二八）は、上京して洋画家の黒田清輝に学び、また東京美術学校に新設された西洋画科に入学するとともに黒田らが創立した白馬会にも参加した。明治四十五年には中沢弘光、三宅克己らと光風会を起こしたことも知られる。

《満洲鉄嶺》は、大正五年（一九一六）の皇太子裕仁親王（昭和天皇）の立太子礼を祝うために、日本古代から現代までの歴史を三十六名の日本画家が絵画化した西帖三冊とともに、文官一同より献上された七面の油彩風景画の一つ。山本の他に和田英作（一八七四～一九五九）、中川八郎（一八七七～一九三三）、中沢弘光（一八七四～一九六四）、石川寅治（一八七五～一九六四）、安田稔（一八八一～一九六五）、金観鐸（一八九〇～一九五九）が揮毫を担当し、日本国内からは富士山と瀬戸内海という日本の山と海それぞれの名勝地が選ばれ、それとともに当時「外地」と称された各地の名勝が画題とされた。山本は満洲へ写生旅行に出かけ、同じく外地の風景を担当することとなった石川は台湾、安田は樺太、中沢は朝鮮へと足を運んだ。日本では見られない満洲の壮大な自然美は山本の心を引きつけたようで、本図を完成させたのと同じ年に開催された第十一回文展にも、山本は満洲の風景を描いた作品を出品している。本図に描かれているのは中国遼寧省北部の鉄嶺市にある龍首山である。外光派の画家らしく、鮮やかな色調で細かなタッチが重ねられ、爽やかな風が吹き渡る満洲の大地の光や空気が見事に表現されている。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ — 光と影の造型美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 70

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shozokan